
魔法少女リリカルなのは00 『転生者による破壊と再生』

スカイ・エクリプス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは00 『転生者による破壊と再生』

【Nコード】

N9707X

【作者名】

スカイ・エクリプス

【あらすじ】

機動戦士ガンダム00の好きな主人公が、リリカルなのはの世界でアンチする話です。

#00 転生……って、どういふこと？（前書き）

観月さんの小説に触発されて書いてみました。

#00 転生……って、どういうこと？

ふと気がつくと、俺は見渡す限り白色が続く謎空間にいた。

「ここ……ドコ？」

確か俺、劇場版00のBlue-rayを視聴してたハズなんだけど

……

それに、目の前にはスクライドのシェリス・アジャーニに似た女性
がにこやかな顔してこっち見てるし……

このままじゃ埒があかん、とりあえず目の前の女性に声をかけてみ
るか……

「あの……」

「はい、何か？」

シェリスと違つて、この人やたらおつとりした口調だな……

「なんで俺、こんなとこに？」

「すみません、私の不手際で間違えて殺してしまいました」

やけにサラツと言いやがったよコイツ……

「ここドコ？ディラックの海虚数空間？」

「いいえ、ここは死後の世界です。あなたの言うディラックの海で
はありません」

つまり俺、死んだってこと？

すると、目の前の女性は俺の思考を読んだのか、予測したのかは不
明だが、おもむろに口を開く。

「驚かないんですね……自分が死んだっていうのに……」

「まあね、ってか生きててもしょうがなかったし……で、俺これか
らどうなるワケ？」

「今回の件は私の不手際によるミスなので転生させます」

「……拒否権は？」

「ありません。その代わり、転生の際に特典三つと転生先を選択で
きます」

特典三つと言われ、俺は少し悩む。特典、特典……よし。

「じゃあ……一つ目、劇場版機動戦士ガンダム00のコロニー型外宇宙航行母艦『ソレスタルビーイング』と量子演算型処理システム『ヴェーダ』をくれること、二つ目に私設武装組織ソレスタルビーイングのプトレマイオススクール、及び沙慈・クロスロード、ルイス・ハレヴィ、グラハム・エーカー、カティ・マネキンを全員俺の転生先に転生させること、三つ目に俺の意識をデータ化してヴェーダにダウンロードすること」

「わかりました、ところで、転生先はどちらに？」

「魔法少女リリカルなのは」

転生先が『リリカルなのはの世界』と聞いて、目の前の女性がやや面食らった表情を浮かべている。おそらくは機動戦士ガンダムSEEDの世界に転生して原作ブレイクすると考えていたからだろう。

「なんでリリカルなのはの世界かっていうと、管理局をぶっ壊したいからなんだ。たかが人間の分際で神を気取って自分たちの傲慢な思想を他者に押し付けて、それを『世界の正義』とのたまう連中の神経が気に入らん」

ストライカーズ

「了解しました、時代はStrikersでよろしいでしょうか？
それとも、アリシア・テストロツサが死ぬ五年前でしょうか？」

「後者で、ってか、なんで分かんのか？」

「前に転生させた人とほとんど同じことを注文してきたので……」

「あ、そう……じゃあ、転生場所もその『前に転生させた人』と同じ場所です」

「では、転生させます。第2の人生をお楽しみください」

#00 転生……って、どういふこと？（後書き）

次回から本編スタート。

#01 さあ、はじめよう(前書き)

本編スタート。

#01 さあ、はじめよう

どうも、スカイ・エクリプスです。

あれから転生して四年がたちました。

転生してまずはじめにしたことは、自分の肉体を作ることでした。

カンのいい人、というより00の外伝、もしくは劇場版機動戦士ガンダム00を知っている人ならもう気づいていると思いますが、リボンスタイプのイノベイドにしました。

どうやら、リボンスタイプのイノベイドだと、アムロ・レイ古谷さんの声になるみたいです。

トレミーのみなたちも転生させたはずなのですが、先日の神様の手続きが遅れてしばらくひとりぼっちでさみしかったので、とりあえずリボンス、リジエネ、ヒリング、リヴァイヴを造りました。

はじめの頃はリボンスがやたら突っかかってきていろいろいざこざがありました。リボンスには専用のガンダムを開発すると言って落ち着かせました。イノベイドのみんなは俺の思想に賛同してくれ

たし、みんな俺がイノベイドであることも知ってます。

つてか、ヴェーダにリンクしてる時点でわかるしね……そして今は、ガデッサ、ガラッゾ、ガラムガンダムなどの開発をしながら、今後の方針について話しあっています。

「当面の問題点といえば、どうやってスカリエッティと接触をはかるかだ」
「コンタクト」

そうつぶやくのはウェーブがかった黒髪の青年、刹那・F・セイエイだ。彼は俺と違い、イノベィター純粹種である。

「そうね、まずはそれを考えないと話が進まないわね……」

そう言って黙考するのは、ソレスタルビーイングの戦術予報士、スメラギ・李・ノリエガだ。

「ヴェーダを使えば一発なんだが、それだと面白くないからね」

「リボنز、今まさに俺も同じこと考えてた」と俺がつぶやくと、リジエネとリヴァイヴはくすくす笑い、普段は黙然としている刹那でさえもやや笑っているように見えた。

「で、どうするの？スカイ」

「それについては、もう考えてある。あの腐った脳みそ共を利用しようと考えてるんだ」

やや笑い気味のルイスが今後の方針について聞いてきたため、俺はさらりと答える。

「腐った脳みそ……最高評議会のことか？」

『腐った脳みそ』と聞き、地球連邦軍作戦指揮官カティ・マネキンが即答に近い時間で返答してくる。

「ああ、そうだよ。彼らは不死で強靱な肉体を欲している。そこに俺たちイノベイドのデータを持ち込めば……」

「喜んで食いついてくる」

俺の中途半端に切ったセリフの続きをつむいだのは、元ユニオン軍オーバーフラッグス隊隊長であり、独立治安維持部隊アロウズのワンマンアーミー、ミスター・ブシドーでもあった地球連邦軍ソルブレイヴス隊隊長のグラハム・エーカーであった。

「そう、その上交渉次第ではいい資金援助もしてくれるだろうしね」

「ずいぶんとえげつないね……」

「リボنزに言われたくないよ」

「それはそうと……」とやや遠慮がちにリヴァイヴが声をかけてきたため、そちらに顔を向けると、「なぜこの時代に転生したんですか？」と聞いてきたため、少し黙考してから答える。

「もうすぐ、新型魔導炉の実験があるのは知っているね？」

その問いに、その場にいる全員がうなづく。

「その時にアリシアが死ぬだろ？」

「つまり、アリシア・テストロツサをイノベイドとして復活させてテストロツサ家をこちら側に引き込む作戦ね」

俺の次の言葉を言い始める前に、スメラギが俺の言いたかったその

ものズバリを言い当てる。

「まさにそのとおりだよ……」

「あたしてつきり遊びに行ってるのかと思った」

「ヒリング、それはどういう意味だい？」

「だって、毎回違うお土産買ってきてたから、てつきり遊びに行ってるのかと思っ」

『遊びに行っている』と言われ、少々癪に障ったので、少しヒリングをいじめてみることにした。

「ヒリング、そういえば昨日の掃除当番サボったよね……」

「な、何でそのこと知ってるの……」

ふと見ると、ルイスが「私が言った」とでも言わんばかりに楽しげな表情を浮かべている。

「ルイス!!」

「自業自得でしょ？」

そしてヒリングは、リボنزによって引きずられ、いずこかへと連れて行かれた。

#01 さあ、はじめよう(後書き)

次回はプレシアさんに^コンタクト^{クト}接触します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9707x/>

魔法少女リリカルなのは00 『転生者による破壊と再生』

2011年11月16日18時11分発行